

【ユニセフ出前講座参考資料】

(2003年東ティモール・スタディツアー報告)

ブーゲンビリアは赤く！ 独立から自立への道は・・・

2003年10月23日

日本ユニセフ協会岩手県支部 藤原 綾子

(はじめに)

日本ユニセフ協会は、東ティモールに1999年子どもと女性のために100万ドル緊急支援をし、大変な時期から関心を寄せ支援をし、その後も支援を続けてきました。

2002年5月20日、東ティモールはインドネシアから独立をし、今回の東ティモールスタディツアーの目的は、独立後の子どもと女性の状況を把握し、東ティモールの支援の成果を知ることでした。

期間は、2003年9月20日から28日の9日間で、参加者は各県支部から6名・日本ユニセフ展示ボランティア1名・日本ユニセフ協会2名の計9名でした。



ユニセフと国際赤十字による教育、保健などに必要な物資の提供は、1979～1990年まで行われており、1990年以降現地事務所を開設し、支援活動をすすめています。

1999年の住民投票の騒乱により中断し、スタッフは避難し戻ったときには、事務所は破壊され、倉庫から援助物資は略奪されていたという。ディリ市の建物の70%が破壊され、安全な飲み水、トイレなど壊滅的な状態になってしまいました。

ユニセフの支援では、「水と衛生プログラム」の状況、学校の教育環境、保健、識字教育、女性たちの自立した事業など多くのユニセフの支援状況を視察し、村々にまでその成果を確認することができました。しかし、インフラはまだ不十分です。

東ティモールは、識字率約50%、小学校就学率67%（卒業は3～4割）、飲料水普及率40%、トイレ普及率20%、予防接種率35%、栄養不良児率45%、5歳未満児死亡率124/1000人、一人当たりGDP（国内総生産）304ドルとアジアの中でも大変きびしい状況といえます。

失業率70%、平均寿命47歳です。

2004年6月国連東ティモール支援団（20数ヶ国）が引き上げた後、この国はどうなるのだろうか？

村への支援はすすんでおり、ユニセフの果たす役割・期待の大きさを改めて認識しました。マリアナの高校生のシアターを見、いきいきと熱のこもった演技をする生徒たちに、新しい東ティモールの胎動を感じることができました。家々の軒先に咲く赤いブーゲンビリアは、心なしか寂しげだった。

（東ティモールってどんな国？）

ワニ形をした国土は、約14,600 平方キロ（長野県程度）ティモール島東半分と西ティモール内の飛び地オエクシから成る13県。東経123-127度、南緯8-10度に位置し、日本との時差はありません。

気候は、明確な雨季と乾季の区別のある熱帯モンスーン気候に属し、9月は乾季で連日30℃を越え丘陵地帯は茶褐色でした。

人口80万人、首都ディリは12万人です。人口の大部分はマレー系で皮膚の色が濃いのが特徴です。

言語は、公用語がポルトガル語とテトゥン語、実用語がインドネシア語と英語ですが、テトゥン語が82%・インドネシア語43%・ポルトガル語5%で、ポルトガル語を教える先生も少ないのが現状です。

宗教は、キリスト教（主にカトリック）が9割、イスムラ教は少数です。

（歴史概略）

- | | |
|--------------|--|
| 16世紀 | ポルトガルがティモール島を占領 |
| 17世紀 | オランダが西ティモール占領 |
| 1942年 | 日本がティモール全島占領 |
| 1945年 | インドネシア独立 西ティモールはインドネシアとして独立
東ティモールはポルトガル領に |
| 1974年 | ポルトガルが植民地支配を放棄
これをきっかけに内戦が勃発 |
| 1975年11月 | 東ティモール独立革命戦線が東ティモール民主共和国独立を宣言 |
| 1976年 7月 | インドネシア東ティモール独立を認めず、武力でこれを併合 |
| 1978年 3月 | 国連総会 インドネシアの一方的な併合認めなかったが、インドネシア国民会議は併合を決議 |
| 1998年 5月 | スハルトインドネシア大統領退陣で情勢が急変 |
| 1998年 8月 | ハビビ新政権が提案した独立の是非を問う住民投票
(国連管理下で実施・独立賛成が78.5%)
この後、併合派民兵による発砲・略奪・騒乱状態へ
国連安全保障理事会決議により、多国籍軍展開 |
| 1999年10月 | インドネシア国民評議会併合撤回決議
独立まで国連東ティモール暫定統治機構を設置 |
| 2001年 8月 | 憲法制定議会選挙
東ティモール独立革命戦線フレテリンが第一党に |
| 2002年 4月 | 大統領選挙 シャナナ・グスマン当選 |
| 2002年 5月 | 東ティモール民主共和国として正式独立 |



1. ユニセフ・ディリ事務所でのブリーフィング

ユニセフスタッフ50人（内国連職員11人）

浦元義照特別代表（着任2年半・12月から東京事務所所長）

- （1）東ティモールの復興の現状は、世界に例を見ない国連による国づくり・物価高に悩む家庭経済・インドネシア語を話す青年層・農業、教育、保健医療、行政分野における不備・不足により、経済・政治的にも10～20年はかかるのではないかと。国づくりは、子どもから民主主義教育をやっていかなければならないという。



- （2）子どもに関する統計では、識字率・小学校就学率をみてもアジアでは最下位貧困一日1ドルで生活している世帯41%、貧富の差ポルトガル語を話す指導層・インドネシア語を話す青年層・言語は・・・地雷はない

- （3）行政のティモール化、行政組織の再建が課題。17,167人の公務員、給料・質・モラル・勤務環境、給与与えることができない。生活苦。

市民社会の役割と育成、撤退・縮小する国際NGO

教会のネットワークと急速に設立される地元NGO

世界一高い出産率、東ティモール7.4人（日本1.3人）

- （4）ユニセフの活動

〔保健セクション〕

- ・総合的乳幼児ケア
- ・ヘルスセンターへ薬・資材を与える
- ・村の活動、母乳の奨励
- ・水と衛生、井戸の整備・ハウス用トイレづくり・水を一般家庭に、学校200校のトイレづくり、訓練など人づくりに一番力をいれている

〔教育セクション〕

- ・コミュニケーション エディケーション

識字教育（女性）、子どもにやさしいスペース、コミュニケーション

民主主義の根本的理念を学ぶ

- ・基礎的教育

すぐにやったのは学校の屋根修復、100校

プロジェクト（先生の訓練・PTA設立・能力開発・カリキュラム作って普及）

〔子どもの保護〕

- ・子どもの権利条約にそうよう国内法の整理
- ・子どもを保護（NGOと組んで）

子どもを暴力から守る・子どもの放任・虐待

- ・子どもの出生登録制度の開発支援



2. 小学校訪問

(1) アカヌヌ（アカヌヌ全体・8校あり1,747人の生徒、50人の先生）

- ・5年生まで138人 20人幼稚園
- ・4教室 二つにわけて授業（8:00～11:00～11:00～14:30）
- ・学校の隣に、ユニセフによるリソースセンターがあり、質の高



い教育ができるよう先生の育成

・今不足しているのは、先生のための本・音楽スポーツの施設・救急など

・PTAコーディネーターの挨拶から

「再建のためにありがとうございます。この村は、113戸594人、全員が学校にきているわけではない。十分な食料がなく、洪水で家がない人、水がなく丘の上に取りに行き、学校にいけない子、教材や行事にお金が払えず学校にこなくなる子もいる」



(2) アタバイ

- ・生徒 422人 先生 12人
- ・99年 建物は壊され、教会で一年間授業し、NGO支援で学校を直した
- ・校舎1～3年生と4～6年生わけている。床で授業、その後ユニセフから机・イスの支援
- ・教材が不足、経済的に困窮している家庭、両親を失った子ども
- ・校長先生のお話から

「食べ物がなく何も食べてこない子がおり、スナックでもあればスムーズに授業ができる。水不足、水があったら緑化運動したい。学校の回りに車が多いので柵がほしい。先生の経験不足、トレーニングの施設がほしい。生徒の10人位が精神的病にかかっている。コアスクールに決定しているが拡声器・マイクもない、コミュニケーションがスムーズにいかない。独立のため闘った人たちは、今仕事がなく子どもにも影響する。学校にタイプライター・コンピューターがあれば助かる」



3. 農村・水と衛生事業

東ティモールでは、清潔な水の確保は大きな問題であり、先進国政府やODAでは大規模な給水施設は、都市部に造っており、農村部では簡素で、低コストで、維持管理ができる能力向上のレベルアップをすすめ、単に物の提供だけではない。

村人から2人(男と女)を選びユニセフによる10日間の研修・・・村で給水と衛生改善をすすめる起業家になる。

(トイレ)

トイレと型枠と道具をユニセフが貸与、設置普及に起業家が当たり、トイレ設置確認後、起業家に建設費をユニセフが払う。

(給水)

簡素で維持管理ができる井戸、水源からのパイプラインの2つの方法ができない場合は、大型の水がめづくりをすすめている。



4. 保健センター

(ロスパロス県)

- ・政府の病院はここにしかない。医者2名(フィリピン・スペインから)

地方の保健センターには医者はいない

私立のクリニック3軒・医者いない。看護師

- ・助産婦のみ
- ・予防接種キャンペーンで大勢の親子、治療にきている人
- ・子どもの死亡 NO I マラリアついで肺炎、入院の女の子1年4ヶ月4. 2 k g
- ・母子手帳 ユニセフ手直し政府が交付
- ・ユニセフの支援

ワクチン類・薬・ガス(冷蔵庫用)・車1台バイク2台 機能性をはかっている

ユニセフは直接的にはかかわらないが、チェック(視察)はする

(ボボナロ県・アタバイ郡)

- ・地域住民に対し、予防接種・体重測定・ワクチン 薬類・避妊具などの提供

- ・5歳未満児 マラリ



ア・栄養不足

脱水症状の時 経口補水塩（ORS）を与える

センター長

困っていることは、水が確保できていないこと。2台のバイクで巡回しているが、道が悪く自分たちがあぶない。

ワクチン受けにきた若い母親24歳
3人目の子ども、4人はほしい。
6ヶ月まで母乳で育てた。



5. 女性識字グループ

（ボボナロ県） 東ティモールで
一番識字率が低い

インドネシア時代に何も教育を受けていない。

YASRA（地元NGO ユニセフ識字プロジェクトパートナー）は、2001年から女性の識字教育に力をいれてきた。その外人道的面、教育・保健・衛生・社会教育・宗教に力を入れてきた。

2001年 26グループ 家畜飼ったり・野菜つくったり

2003年 3グループ

第1グループ 26小グループ 資金を活用（小さな銀行17・縫い物1・やぎ飼育7・寺子屋1）第2グループ 29グループ（豚飼育14・やぎ飼育15）

第3グループ 525人 学習チームに入っている
知識を高める研修、収入を得るためのさまざまな面で人材不足、小規模産業を育てるための育成が課題である。



ボボナロ県 非識字率が一番高く男女合わせて65%（女性42%）

（ロスパロス県） 村の集会場で週2回識字教育
二つの女性グループ 約30人 男性も1人参加
最初にティトン語の読み書き 6ヶ月で一応終了、
次にポルトガル語一年間

（東ティモール 教育省）

ユニセフは、鉛筆・ノート・教科書・先生の派遣など支援をしている。

自分の名前が書けるようになった！！

6. 小事業グループ

（ボボナロ県） 識字グループ 小グループ

ユニセフから222ドルの支援で事業を始めた。
伝統的な織物、ミシンを使って洋服づくりで、2



002年度587ドルの純益を出した。学校の制服の注文が多くなってきた。

収益で小麦粉を買い、パンを作って市場に出している。

7. 子どもの保護ネットワーク

インドネシア時代 東ティモールの人々は、多くの人権侵害を受けた。特に子ども達は、人身売買・強制労働・強制兵士・性的暴力・誘拐など心に大きな傷を負っている。

若くして結婚させられたり、現在も子どもの人権が守られていない。

政府・家族からのケアを受けられず、孤児になっている子どももいる。

2003年7月 マリアナ子どもの保護ネットワークが設立し、若者のグループが子どもの保護のメッセージを劇の上映という形で表現、高校生が参加している。

マリアナ子どもの保護ネットワークは政府の社会サービス局とユニセフによって支援されており、社会サービス局は、ユニセフの子どもの支援コンサルタントを受け入れている。

- ・さまよえる子どもたち
- ・学校問題 学校にいけない

- テーマ
- ・女子の早婚
 - ・古くからの慣習
 - ・先生と生徒の関係 など



8. ラジオ局

(ロスパロス・コミュニティラジオ局)

2002年5月設立、独立における女性の声・抵抗勢力の中の子ども達・環境・自家菜園など、一日8時間週6回放送している。

ドラマ「夢に向かって」少女がどのようにして初等教育を終えるか、頑張れば高校に！を描いたもので、ユニセフもプログラム支援している。

(ラジオ・ティモール・レステ)

首都ディリで、ラジオドラマチームと交流後、記者会見を行った。

参加 (旭 英明臨時大使、浦元義照特別代表、加藤陽一日本ユニセフ協会)

日本：アジアの一環である東ティモールに１９９９年１億３０００万ドル、２００２年５月６０００万ドル援助。国づくりに自衛隊（５２２人）が支援活動している。

日本ユニセフ協会：戦後１５年間 日本が困った時にユニセフから支援を受けた。手をさしのべようとする人は多く、東ティモール支援になっている。

１９９９年 子どもと女性の緊急支援 １００万ドル、その後も２０００年・２００１年・２００２年と支援、今後もフジテレビ・生協が取り組んでいく。

独立後の子どもと女性の状況を把握し、支援の成果を知るため訪問。支援は、地方の村々にも行き届いている。

日本は、何故東ティモールを支援するのか、日本の大きな支援を日本の社会・人々はどの程度まで知ることができるのでしょうか等、質問があった。

ラジオは各家庭にあるわけではない。１台で２～３世帯が聞いているという状況である。

(カトリック教会)

ユニセフと教会の関係は密接であり、ユニセフは教材など必要物資の提供・教員の研修・学校修復・教員の手当支給を緊急時に援助し、教会は学校を運営し、青少年の職業訓練・女性の識字教育・知識の習得・生活習慣の改善を行っている。

ナシメンテ神父

「日本のみなさん あなたの心を分かち合ってくれてありがとう！」

教会の役割は一言ではいけない。いろいろなことを必要とおり、大きなチャレンジは新しい世代を育てていくことだ。

(日本の自衛隊 P K O) ２０数ヶ国

東ティモールの国づくり支援 現在は東海北陸部隊 ５２２名 内女性５名

「大人には技術を！子どもには夢を！」

道路の維持補修・給水施設の維持管理・施設機械操作教育・グラウンド整備
ボランティア活動 幼稚園・孤児院訪問、スポーツ交流



（おわりに）

ユニセフディリ事務所の浦元特別代表はじめスタッフのみなさま、旭大使、訪問した県・施設・N G Oのみなさまの懇切丁寧な対応で、大変充実したスタディツアーを終えることができましたことに心から感謝申し上げます。

日本が、2年半も全島占領していたことを初めて知りました。ユニセフの資料で理解していたことが、実際に子どもや女性の支援に役立てられていることを確認でき、正に「百聞は一見にしかず」の思いを強くしました。

困難な中でも、いきいきと明るい高校生に東ティモールの未来を見るような気がしました。

自立の道を一步一步すすんでほしいと願っております。

